

「自然災害による被災者の債務整理に関するガイドライン」の利用について

公益社団法人福岡県不動産鑑定士協会

平成29年7月5日からの大雨（平成29年7月九州北部豪雨）により、福岡県や大分県では家屋の倒壊や崖崩れ等の甚大な被害が発生しました。被害に遭われた方々には、大変なご心労のこととお察しし、心からお見舞い申し上げます。

自然災害の影響により、住宅ローン等を借りている個人や事業性ローンを借りている個人事業主が、既往債務を抱えたままでは再スタートに向けて困難に直面する等の問題が生じることが考えられます。そのような債務者が、一定の要件を満たした場合に、法的倒産手続によらずに、債権者と債務者の合意にもとづき、債務整理を行う際の準則として、「自然災害による被災者の債務整理に関するガイドライン」と題してまとめられました。

このガイドラインの特徴として、一定の要件のもとで債務整理が行われる事により、財産の一部を手元に残してローンの支払い免除・減額等を受けることができる、あるいは、破産等の手続きと異なり、債務整理をしたことが個人信用情報として登録されないため、新たにローンを組むときに不利益がない、などがあります。これにより債務者の生活や事業の再建が可能となります。

なお、このガイドラインによる債務整理の手続きにおいては、弁護士や不動産鑑定士等の「登録支援専門家」による手続き支援を無料で受けることができます。

このたびの平成29年7月5日からの大雨は、「災害救助法」の適用自然災害となされ、この「自然災害による被災者の債務整理に関するガイドライン」が適用されます。

公益社団法人福岡県不動産鑑定士協会では、このガイドラインに基づく登録支援専門家として不動産鑑定士の委嘱依頼を受け付けています。

土地や建物の「価値」を見極める専門家である不動産鑑定士が、中立、公正な立場で被災者の支援を行います。

以上